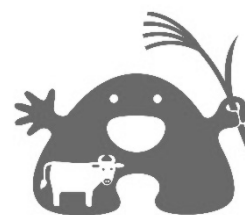


阿蘇草原再生レポート

活動報告書 2024



阿蘇草原再生



阿蘇草原再生協議会

(2026年3月発行)

令和6年度 新規活動計画案 一覧表

NO.	実施主体名（提出者）	事業・活動名	関連する 全体構想 の取組	関連小委員会			その他
				牧野 管理	草原環 境学習	野草 資源	
1-1	狩尾南山原野管理組合 （阿蘇市）	令和6年度阿蘇草原再生狩尾南山牧野 や草地環境保全	2, 3, 5	◎			
1-2	狩尾牧野組合（阿蘇市）	狩尾牧野と狩尾地区の交流	1, 2, 3	◎			
1-3	笹倉牧野組合 （阿蘇市）	笹倉牧野と地域の交流会	1, 3, 6, 7 , 12	◎			
1-4	田ノ原牧野組合 （南小国町）	輪地切り・野焼き	2	◎			
1-5	上田尻牧野組合（産山村）	牧野の維持	1, 2, 6	◎			
1-6	上二子石牧野組合 （南阿蘇村）	上二子石牧野の維持と交流会	2, 3, 6, 7 , 11	◎			
1-7	長野牧野農業協同組合 （南阿蘇村）	長野牧野と地域の交流会	2, 3, 4, 7 , 11	◎			
1-8	小森原野組合 （西原村）	草原の活用	1, 2, 5, 8	◎			
1-9	佐藤智花／ 阿蘇さとう農園	緬羊の放牧による草原の維持管理	1, 2, 4, 9	◎			
1-10	（公財）阿蘇グリーンスト ック	野焼き支援ボランティア活動	2, 3, 6,	◎			
1-11	（公財）阿蘇グリーンスト ック	野焼き支援ボランティア初心者研修 会	3, 6, 9	◎			
1-12	（公財）阿蘇グリーンスト ック	令和6年度あか牛オーナー制度の推 進	1, 6, 9	◎			
1-13	熊本県農業研究センター 草地畜産研究所	スマート農業技術を活用した省力 的・効率的な草地管理技術の開発	1	◎			
1-14	環境省 九州地方環境事務 所 自然環境整備課	阿蘇草原再生野草地環境保全計画策 定検討業務【牧野カルテ】	2, 4	◎	○	○	
1-15	環境省 九州地方環境事務 所 自然環境整備課	野焼き作業等の省力化及び野草地利用 を支援するための施設整備事業	2	◎		○	
1-16	環境省 九州地方環境事務 所 自然環境整備課	野焼きの専門家集団の育成	2, 6	◎		○	
2-1	国立阿蘇青少年交流の家	阿蘇の草原キッズになろう！ （秋編・野焼き編）	8	○	★ ◎		
2-2	熊本県立阿蘇中央高等学 校	草原環境学習及び草原維持活動	2, 8, 9	○	◎	○	
2-3	公益財団法人再春館 「一本の木」財団	親子の自然体験学習会「とれたての阿 蘇の野草を動物園のゾウに届けよ う！」	8		★ ◎	○	
2-4	木部直美	草原環境学習「オオルリシジミについ て学ぼう！」	8		★ ◎		
2-5	大和ハウス工業（株）	ロイヤルシティ阿蘇一の宮リゾート 草原育成プロジェクト	4, 8		◎		
2-6	草原環境学習小委員会	阿蘇草原キッズ・プロジェクトⅣ ～草原と通して地域を学ぼう～	8, 9		★ ◎		
2-7	（公財）阿蘇グリーンスト ック	令和6年度草小積み再生プロジェク ト	8		◎		

NO.	実施主体名（提出者）	事業・活動名	関連する 全体構想 の取組	関連小委員会			その 他
				牧野 管理	草原環 境学習	野草 資源	
3-1	阿蘇草原再生シール生産者の会	草原植生調査と野草堆肥利用のための採草活動	1, 4, 8, 9	○	○	◎	
3-2	農事組合法人 草原再生オペレーター組合	未利用草地の採草による草原再生事業	2	○		◎	
3-3	熊本県農業研究センター 草地畜産研究所	高自給率発酵 TMR を活用した放牧肥育牛飼養管理技術の確立	1	○		◎	
3-4	中村華子／日本緑化工学会生態・環境緑化研究部会	野草種子を緑化事業に活用するための取り組み	4, 6, 7, 8, 9, 10, 11		○	◎	
4-1	(公財)阿蘇グリーンストック	阿蘇地域における希少野生動植物の生育生息状況調査	4				◎

◎：当該実施計画の検討を主に受け持つ ○：必要に応じて検討・協議を行う

★：阿蘇草原キッズ・プロジェクトの活動

※グレー塗りつぶしの計画は、活動結果報告の提出がなされなかった計画。

「該当する第3期全体構想の取組」 凡例 ※構成員による活動の観点から整理・一部加筆

カテゴリー (3つの柱)	選択肢 (取組の項目)	具体例
生業による草原維持の支援強化	1 農畜産業の継続／支援強化	○繁殖あか牛の導入／預託放牧の推進／域内一貫経営の検討 ○新規就農の促進／小規模農家への支援 ○スマート農業の実装化など管理の省力化・効率化 等
	2 牧野管理作業の継続／軽減	○野焼き・輪地切りの継続／牧野管理道等の整備や支援／中山間直接支払等の補助事業 ○小規模樹林帯の伐採／草原と保安林における検討・モデル事業の実施 等
	3 ボランティアの拡充	○地元交流会の開催など地域内での参加促進 ○ボランティア研修会の実施／ボランティア負担軽減策の検討 等
公益機能保全のために多様な主体が関わる草原管理	4 生物多様性保全の促進	○生物多様性に配慮した営農／生息地の保護や生物調査の実施／新たな支援制度の検討 等
	5 観光利用による草原維持	○観光利用の実施／牧野利用ルールや協力金等の仕組みづくり／草原の語り手やガイド育成 等
	6 多様な関わりによる草原管理の推進	○野焼き再開事業の実施／「実行委員会形式」など新たな体制による維持管理の実施 等
	7 野草資源の多様な利用の促進	○野草資源利用の事業化／野草資源利用のための基盤整備(人材育成・インフラ整備・機械化) 等
普及啓発と科学的根拠に基づく後方支援基盤づくり	8 草原環境学習の実施	○地域内の子どもへの草原学習／地域内の大人への普及啓発／地域外を対象に行う普及啓発 等
	9 情報発信の強化	○各取組を促進するための情報発信やPRの実施
	10 草原情報の蓄積・活用の基盤づくり	○阿蘇草原に関する情報収集／蓄積／活用
	11 草原機能に関する科学的データの収集	○阿蘇草原の多面的機能等に関する研究／支援
	12 草原再生の活動基盤の安定化	○牧野の権利関係や管理形態、草原再生の財源確保に関する情報整理／検討
—	13 その他	(上記に該当しないその他の取組)

令和6年度活動結果報告 1-1

提出日	令和 7年 7月 8日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 狩尾南山原野管理組合（阿蘇市）		
	担当者名： 永富傳次		
事業・活動名	令和6年度阿蘇草原再生狩尾南山牧野や草地環境保全		
実施場所	狩尾南山原野		
実施日・期間	令和 6年 7月 4日 ~ 令和 7年 3月 25日		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月から8月にかけて畜産農家による朝草採草。 ・ 10月から防火帯の輪地切り作業。昨年は25名参加あり。 ・ 令和7年3月25日野焼き作業。 組合員10名、地元の消防団5名、ボランティア25名 		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンストック ・ 道の駅 ・ 地域振興局 		
実施の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の野焼き作業は地元の消防団の方の参加は見込めない。 組合員への呼びかけを強めること。 ・ 資金不足のため、安全に輪地切り作業、野焼き作業等のシステム化を監完 成させること。 		
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年は道の駅より5万円の助成金と県の地域振興局より15万円の申請 中。 ・ グリーンストックの方にも40万円の助成を相談する予定。 ・ 小さな原野組合には中山間支払い源泉が51585円 		
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して野焼き作業等できるシステムを早急に確立させたいと願うばかり です。 ・ 役員のなり手がいない状況。 		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ <u>2. 使用なし</u>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

令和6年度活動結果報告 1-4

提出日	令和 7年 7月 16日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 田ノ原牧野組合（南小国町）		
	担当者名： 三嶋 智明		
事業・活動名	輪地切り・野焼き		
実施場所	田ノ原牧野		
実施日・期間	令和 6年 3月 1日 ~ 令和 6年 10月 31日		
実施内容	・ 牧野内の輪地切り、野焼き		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組合員 16名 ・ 地元ボランティア 10名 ・ グリーンストックボランティア 		
実施の様子			
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	地元ボランティアの増加が見られた		
実施者の感想	火引の後継者育成		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ <u>2. 使用なし</u>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

令和6年度活動結果報告 1-7

提出日	令和 7年 7月 11日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：長野牧野農業協同組合（南阿蘇村）		
	担当者名：長野 浩之		
事業・活動名	長野牧野と地域の交流会		
実施場所	長野牧野		
実施日・期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和 6年 12月 31日		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牧野肥料振り ・ 野焼き、輪地切り、輪地焼き ・ 有刺鉄線張り ・ 牧道の草切り 		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組合員 30名 ・ 非組合員 10名 ・ 地元消防団 14名 		
実施の様子			
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施内容どおり順調な作業ができた ・ 野焼き 38名 ・ 有刺鉄線有畜産農家 15名 ・ 牧道の草切り 25名 		
実施者の感想	天候に恵まれ、順調な作業が予定通りできた		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. <u>使用なし</u>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

令和6年度活動結果報告 1-8

提出日	令和7年6月23日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：小森原野組合（西原村）		
	担当者名：田中英雄		
事業・活動名	草原の活用		
実施場所	小森原野		
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
実施内容	<p>1.畜産産業の継続/支援強化 組合員に牧野貸与し約100頭の周年放牧継続中。 支援として、劣化した有刺鉄線の材料費補助、牧野から逃亡牛の捕獲支援の実施、劣化鉄線の調査を行った。⇒原野組合理事・監事&役場職員含む（20名）</p> <p>2.牧野管理作業の継続/軽減 野焼き（約150名）輪地切（役員延べ30人）の実施 重機工事による防火帯の輪地切作業負担軽減 ※画像添付</p> <p>5 観光事業による草原維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マウンテンバイクによる草原利用計画 ヤマハ発動機（株）現地視察（4/4）実施したが以降、進行無し ・西原村モーニングトレイルランの原野提供 ・登山ルートの整備 村観光協会による『俵山登山』への協賛と原野の開放を実施 ・農業遺産の伝承 草小積、草泊りの製作と展示 萌の里駐車場に展示 作成：小森原野組合理事・監事 ※画像添付 <p>8. 草原環境学習の実施 草原学習（萌の子塾）教育委員会主管の支援実施 期日-9/10 参加者：小学校3年生50名 ※画像添付</p>		
実施体制 (連携・協力)			
実施の様子	①草原学習		

2024/9/10 萌の子塾



②下小森防火帯重機工事

2024/10/5 工事前



2024/10/21 完成立合



③草泊り、草こづみ造り

2024/11/10



<p>活動目標の達成具合、その他の成果や課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マウンテンバイクの草原利用 — 未達 ・輪地切り 5/5 件 ・草原学習 1/1 件
<p>実施者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原野組合役員による活動が100% ・次年度（R7）より輪地切りを3ブロックに分けて地元の組合員参加で実施 → 総会で決定しました。
<p>ロゴマーク使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p> <p>2. <u>使用なし</u></p>

令和6年度活動結果報告 1-9

提出日	令和7年7月7日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：阿蘇さとう農園(個人構成員：佐藤智香)		
	担当者名：宮本龍		
事業・活動名	綿羊の放牧による草原の維持管理		
実施場所	阿蘇市波野 立塚牧野		
実施日・期間	令和6年1月1日～ 令和7年6月30日		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・牧野の規模拡大・・・5ヘクタールから10ヘクタールへ ・牧野の植生調査・・・放牧圧と植生の変化、希少植物の確認 ・自然共生サイトへの登録・・・申請済み、2025年7月現在審査中 		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・立塚牧野組合・・・放牧地、野焼き等 ・グリーンストック・・・植生調査、柵はりボランティア派遣等 ・環境省(九州支所)・・・自然共生サイト申請相談 		
実施の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年6月牧野の植生調査を実施。 ・R6年8月グリーンストックより派遣のボランティアと一緒に牧野の柵はり作業。 ・R7年4月環境省の職員の方と自然共生サイトへの登録予定の現場の確認と申請書への助言。 		
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンストックに植生調査をしていただいたことにより、植生が明確になり、放牧地のゾーニング計画等にもいい影響があった。今回の調査結果を元に、しばらくは自主的に植生の確認を継続する。 ・牧野の拡大時、柵はりは、野焼き後すぐに実施した方が良いと感じた。草の勢いや熱中症のリスクがある為4月～6月でおこなうようにしたい。 ・自然共生サイトへの登録申請をどうにか進めることが出来た。専門の方々の知識がないと難しかったと感じている。 		
実施者の感想	<p>綿羊の放牧に取り組み始めた5年前は、放牧する事でどう草原維持に貢献できるかはあいまいだったが、最近では輪地切りの一部を羊で担えないか、と考えるようになった。輪地での羊の放牧は南小国町の羊農家と地域おこし協力隊の取組みとして試験的に取組まれている。羊は斜面でも放牧が可能であるため、輪地切りに代わり防火帯をつくれるようになることを、まずは目指している。</p> <p>一方で、綿羊を経済的に自立させるための取組みにもまだまだ時間がかかるため、飼養や放牧、加工に販売どれも「できるしこ」になっているのは課題である。飼養頭数は200頭(連携農家全体300頭)となり、関わってくださる方々に頼りながら協力して取り組みを進めていきたい。</p>		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. <u>使用なし</u>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

提出日	令和7年6月23日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：公益財団法人阿蘇グリーンストック 担当者名：鷲津 大輔		
事業・活動名	野焼き支援ボランティア活動		
実施場所	阿蘇地域内の各牧野		
実施日・期間	令和6年9月1日～令和7年4月12日		
実施内容	<p>担い手不足により野焼き等の実施が難しい牧野組合や地区に対して野焼き支援ボランティア派遣による人的支援を行った。</p>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> 阿蘇地域の牧野組合または地区 公益財団法人阿蘇グリーンストック野焼き支援ボランティア 公益財団法人阿蘇グリーンストック 阿蘇地域の各市町村 		
実施の様子			
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>(目標) 輪地切り・輪地焼き支援活動への実働参加者数 300 名 野焼き支援活動への実働参加者数 600 名</p> <p>(実績) 輪地切り・輪地焼き支援活動への実働参加者数 243 名 野焼き支援活動への実働参加者数 526 名</p>		
実施者の感想	<p>輪地切り・輪地焼き支援活動及び野焼き支援活動への実参加者数はともに目標に届かなかったものの、いずれも昨年度比で 10%程度の増加が見られた。PR 活動の推進や活動参加規程の見直しにより登録会員数が増加したことが要因と思われる。実参加者数の増加は、特定会員への負担の偏りを解消することにつながるため、持続可能な体制づくりには欠かせない。今後は、特作業負荷の高い防火帯づくり(輪地切り・輪地焼き)への実参加者数を増やす取り組みを進めたい。</p>		

ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)
---------------	----------------------	--------------------------

提出日	令和7年6月23日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：公益財団法人阿蘇グリーンストック 担当者名：鷲津 大輔		
事業・活動名	野焼き支援ボランティア初心者研修会		
実施場所	阿蘇草原保全活動センター		
実施日・期間	令和6年7月28日、12月15日、12月21日 令和7年1月12日、1月18日		
実施内容	<p>地域の野焼き等を安全に支援するため、野焼き作業の要領やルールについて研修を行った（各回定員60名）。あわせて、草原が持つ多面的な機能を解説し、草原保全の重要性を伝えた。現役の野焼き支援ボランティアリーダーが指導にあたり、質疑応答にも担当する班ごとに細かく対応した。</p> <p>10:00～12:00 座学（草原の恵み、保全の現状、作業要領、安全管理等） 12:00～13:00 昼食・休憩 13:00～15:00 体験実習（火消棒づくり、火消棒・ジェットシューターの使用方法、班ごとに意見交換等）</p>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人阿蘇グリーンストック ・公益財団法人阿蘇グリーンストック野焼き支援ボランティアリーダー ・阿蘇市草原環境保安全管理協定運営委員会 		
実施の様子			
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>(目標) 受講者 350名 (うち野焼き支援ボランティア会員登録 210名) (実績) 受講者 258名 (うち野焼き支援ボランティア会員登録 188名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員登録の割合は約73%となり、受講した方の多くが活動会員となった (これまでの平均は40～60%程度)。 ・12月開催の2回分が募集定員に達しなかった。 		
実施者の感想	<p>例年1月にまとめていた研修を12月にも試行的に分散させて開催したが、12月に実施した研修2回分ともに定員割れとなった。12月の仕事や行事の多さが要因と思われる。7月及び1月開催分は全て募集定員を超えた受講申し込みがあったことから、今後、開催時期を検討する上でも貴重なデータが得られた。また、受講者数に対する活動会員への登録率は7割を超えた。これは、「安全確保を図るため活動参加は会員に限る」という昨年度の規程の改訂が影響していると思われる。</p>		

ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)
---------------	----------------------	--------------------------

令和6年度活動結果報告 1-12

提出日	令和 7年 6月 日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 公益財団法人阿蘇グリーンストック		
	担当者名：事業部 山本保孝		
事業・活動名	令和6年度あか牛オーナー制度の推進		
実施場所	阿蘇地域（阿蘇市、南阿蘇村、南小国町、高森町）		
実施日・期間	令和 6年 4月 1日～ 令和 7年 3月31日		
実施内容	<p>令和6年度は、8名のオーナー様より計5頭分のご契約をいただきました。これにより、5戸の受入農家に対して、それぞれ1頭分のあか牛導入資金の貸し出し契約を締結することができました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>あか牛オーナー制度について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーナーを1口30万円で募集。2口分(60万円)を1頭の繁殖牛導入資金として、農家に無利子貸付。 ・オーナー特典(5年間)：牛に名前をつけ、ふれあい体験が可能。26万円分をあか牛肉や阿蘇の特産品購入に利用。 ・契約金の内訳(30万円)：会費：1万円(2千円×5年) 農家支援金：3万円 特産品購入枠：26万円 ・農家は無利子で60万円を借りることができ、完済後、支援金として1口3万円(1頭分6万円)を受け取ります。 </div> <p>また、例年春・秋の年2回実施している、オーナー様と受入農家との交流会については、以下のように実施いたしました。</p> <p>春の交流会では、阿蘇の草原にてわらび狩りを楽しんだ後、屋外でのバーベキューを通じて、オーナー様と農家の皆様との親睦を深めました。</p> <p>秋の交流会は、あか牛オーナー制度20周年を記念し、特別企画として開催しました。特別ゲストとして、阿蘇の世界農業遺産認定にご尽力された、イタリア料理店『アンティーカ・ロカンダ・ミヤモト』のオーナーシェフ・宮本けんしん氏をお招きし、あか牛に関するお話と、あか牛肉を使った特別料理をご提供いただきました。</p> <p>当日は、オーナー様および受入農家の皆様、関係者を含め、約50名が参加され、20周年にふさわしい盛大な交流の場となりました。</p> <p><R7年3月末時点のオーナー制度に関する実績></p> <p>オーナー様：個人31名・団体1組織</p> <p>受入れ農家：19戸、導入されたオーナー牛：27頭</p>		
	実施体制 (連携・協力)	<p>事務局：(公財)阿蘇グリーンストック</p> <p>あか牛オーナー、受入農家(あか牛繁殖農家)</p> <p><協力・支援></p> <p>熊本県畜産農業協同組合阿蘇支所・南阿蘇支所、阿蘇市(協定締結)</p>	


<p>実施の様子</p>	 <p>20周年交流会での宮本シェフの講演の様子 オーナー家族のあか牛とのふれあい バーベキュー交流会の様子</p>
<p>活動目標の達成具合、その他の成果や課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度より、あか牛オーナー制度の見直しを行い、1頭あたり2口（1口あたり30万円、計60万円）の貸付とし、完済後には6万円を支援金としてお渡しする新たな仕組みに変更しました。この制度改定により、オーナー牛の受入れを希望する農家が増加傾向にあります。 一方で、1頭あたり必要なオーナー口数が2口に増えたことから、従来よりも多くのオーナー希望者の獲得が必要となっています。 令和6年度は、目標としていた10口・5頭の受入れを達成いたしました。また、秋には、オーナー制度20周年を記念した <p>交流会を開催し、その模様が熊本日日新聞に掲載されるなど、広報効果も高まりました。その結果、制度への関心が高まり、オーナー希望に関する問い合わせが増加しています。</p>
<p>実施者の感想</p>	<p>あか牛オーナー制度は、令和6年度で20周年を迎えることができました。この間、多くの皆様のご支援とご協力により、さまざまな成果をあげることができました。</p> <p>これまでに、延べ388名のオーナー様（うち団体オーナー196名）、157名の受入農家の皆様にご参加いただきました。そして、この制度を通じて導入された繁殖用あか牛は、累計227頭にのぼります。</p> <p>あか牛は、通常1年に1頭の子牛を産み、およそ10年間繁殖を続けることが多いため、この制度を通じて誕生した子牛は、推計で2,000頭を超えと考えられます。</p> <p>これらの成果は、阿蘇地域の畜産業の継続と後継者育成も含め、草原保全に大きく貢献しており、今後もこの制度が地域農業の未来を支える力になることを期待しています。</p>
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) 2. 使用なし</p>

提出日	令和7年 7月 日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：熊本県農業研究センター草地畜産研究所		
	担当者名： 角崎 まき		
事業・活動名	スマート農業技術を活用した省力的・効率的な草地管理技術の開発		
実施場所	熊本県農業研究センター草地畜産研究所		
実施日・期間	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日		
実施内容	<p>【草地・・・牧草の収量予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> マルチスペクトルカメラを用いた植生指標から収量推定を行い、草量推定式を作成する。草量推定式作成の基礎データとして、試験ほ場及び採草地の収量・NDVI データを収集した。 <p>【放牧牛・・・探索手法の開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 放牧牛監視作業の省力化を図るため、機動性に優れるドローンを活用した探索手法について試験を行った。①Bluetooth (BLE) タグを利用し、ドローンに搭載した受信機との通信状況による位置の推定に取組んだ。②ドローンで撮影した映像から、AIにより放牧牛を検出可能か調査した。 		
実施体制 (連携・協力)	協力機関：【放牧牛】株式会社ジャパン・アイディー (BLE タグ、データ解析)、学校法人 早稲田大学 (画像解析)		
実施の様子	 <p>試験ほ場 マルチスペクトル画像 ドローンと BLE タグの測定イメージ AI による放牧牛の検出</p>		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>【草地】令和7年度は、引き続き、試験ほ場・採草地・放牧地の収量・NDVI データを収集し、草量推定式の作成に取組む。</p> <p>【放牧牛】①通信状況によりドローンとの距離を推測できたが、傾斜地や林中での運用は困難と考えられた。②ドローン映像から放牧牛を検出することができた。今後は、高度、日照条件、放牧環境が異なる映像の AI 学習を進め、放牧牛の検出精度の向上に取組む。</p>		
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ドローンは放牧地全体を素早く飛行可能であり、操作も簡単である。一方で、当所所有のドローンに受信機を搭載した際に、飛行が不安定になったため、ペイロード 300g 以上の能力を有するドローンを使用するといった改善が必要となる。 		

ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)
---------------	----------------------	--------------------------



提出日	令和 7年 6月 18日	活動区分 ※事務局で記入	(1)、(2)、(3)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 環境省九州地方環境事務所自然環境整備課 担当者名： 吉岡一也		
事業・活動名	阿蘇草原再生野草地環境保全計画策定検討業務【牧野カルテ】		
実施場所	三久保牧野組合（阿蘇市）、馬場牧野組合、上中原財産組合、下中原牧野組合、黒川原野管理組合（以上4地区は南小国町）、崩戸牧野組合、岸野・堀渡牧野組合（以上2地区は南阿蘇村）		
実施日・期間	令和 6年 6月 6日～ 令和 7年 3月31日		
実施内容	○牧野カルテの作成 現地調査、ヒアリング、検討会等の実施によって、牧野地内の動植物の生息・生育状況の把握や、牧野の過去・現在の状況、牧野内の地名とその由来等について記録した。また、今後の野焼き支援整備事業につなげることを目的に、対象牧野の維持管理上の課題抽出と整備方針を整理した。 以上の内容からなる牧野カルテを7牧野地区において、策定した。		
実施体制 (連携・協力)	各牧野組合、自治会等 阿蘇グリーンストック（業務請負者） 環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所		
実施の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ヒアリング・検討会の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>現地調査の様子</p> </div> </div>		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	・年度当初の予定どおり7牧野で実施。これまでに累計で全72牧野地区での牧野カルテ作成が完了した。このペースを今後も継続できるよう引き続き調整していきたい。		
実施者の感想	・今回対象となった牧野内では現地調査によりそこに生息生育する希少な動植物もいくつか確認されている。自然環境の保全には最大限配慮しつつ、より慎重に整備計画を進めていきたい。		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) 2. 使用なし		

令和6年度活動結果報告 1-15

提出日	令和 7年 6月 18日	活動区分 ※事務局で記入	(1)、(3)																																																
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 環境省九州地方環境事務所自然環境整備課 担当者名： 吉岡一也																																																		
事業・活動名	野焼き作業等の省力化及び野草地利用を支援するための施設整備事業																																																		
実施場所	【整備工事】 車帰牧野、永草牧野、小倉原野、中荻の草牧野（以上4地区は阿蘇市）、 沢津野牧野（南阿蘇村）、竹の畑牧野（産山村） 【測量設計】 田の原牧野、波居原牧野（以上2地区は南小国町）、上田第一牧野（小 国町）、狩尾南山牧野、赤水原野（以上2地区は阿蘇市）、白川牧野（南 阿蘇村）																																																		
実施日・期間	令和 6年 4月 1日～ 令和 7年 3月31日																																																		
実施内容	<p>【整備工事】</p> <table border="0"> <tr> <td>車帰牧野</td> <td>管理道路</td> <td>L= 260m、作業道路</td> <td>L= 100m</td> </tr> <tr> <td>永草牧野</td> <td>管理道路</td> <td>L= 280m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小倉原野</td> <td>作業道路</td> <td>L= 220m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中荻の草牧野</td> <td>管理道路</td> <td>L= 650m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>沢津野牧野</td> <td>管理道路</td> <td>L= 330m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>竹の畑牧野</td> <td>管理道路</td> <td>L= 460m</td> <td></td> </tr> </table> <p>【測量設計】</p> <table border="0"> <tr> <td>田の原牧野</td> <td>作業道路</td> <td>L= 80m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>波居原牧野</td> <td>管理道路</td> <td>L= 480m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上田第一牧野</td> <td>管理道路</td> <td>L= 440m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>狩尾南山牧野</td> <td>管理道路</td> <td>L= 180m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>赤水原野</td> <td>管理道路</td> <td>L= 500m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>白川牧野</td> <td>管理道路</td> <td>L= 560m</td> <td></td> </tr> </table>			車帰牧野	管理道路	L= 260m、作業道路	L= 100m	永草牧野	管理道路	L= 280m		小倉原野	作業道路	L= 220m		中荻の草牧野	管理道路	L= 650m		沢津野牧野	管理道路	L= 330m		竹の畑牧野	管理道路	L= 460m		田の原牧野	作業道路	L= 80m		波居原牧野	管理道路	L= 480m		上田第一牧野	管理道路	L= 440m		狩尾南山牧野	管理道路	L= 180m		赤水原野	管理道路	L= 500m		白川牧野	管理道路	L= 560m	
車帰牧野	管理道路	L= 260m、作業道路	L= 100m																																																
永草牧野	管理道路	L= 280m																																																	
小倉原野	作業道路	L= 220m																																																	
中荻の草牧野	管理道路	L= 650m																																																	
沢津野牧野	管理道路	L= 330m																																																	
竹の畑牧野	管理道路	L= 460m																																																	
田の原牧野	作業道路	L= 80m																																																	
波居原牧野	管理道路	L= 480m																																																	
上田第一牧野	管理道路	L= 440m																																																	
狩尾南山牧野	管理道路	L= 180m																																																	
赤水原野	管理道路	L= 500m																																																	
白川牧野	管理道路	L= 560m																																																	
実施体制 (連携・協力)	環境省事業として業務を発注。完成後の維持管理については、牧野組合、土地所有者（組合と異なる場合）と維持管理協定を締結し、牧野組合によって維持管理を実施。																																																		
実施の様子	 <p>竹の畑牧野における整備工事前後の様子</p>																																																		
活動目標の 達成具合、 その他の成果	<p><活動目標の達成具合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備工事：6牧野、測量設計：6牧野で実施して、完了した。 <p><成果></p>																																																		

<p>や課題</p>	<p>・令和7年3月末迄に、50牧野地区で工事を実施（阿蘇市32、南阿蘇村11、高森町2、産山村2、南小国町2、小国町1） <課題> ・ここまで整備工事を実施した牧野数は、機能維持している全牧野の1/3以下であり、十分とはいえない。引続きスピード感をもって事業を行っていくことが肝要である。</p>
<p>実施者の感想</p>	<p>・各牧野地区から挙げられる整備課題は多岐に渡っており、そのすべてに単独で対応することは難しい状況にある。環境省単独で実施する優先度の高い課題箇所以外については、熊本県や地元自治体関係者との連携協力を模索していく必要があると思慮する。</p>
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) 2. 使用なし</p>

令和6年度活動結果報告 1-16

提出日	令和 7年 6月 18日	活動区分 ※事務局で記入	(1)、(3)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 環境省九州地方環境事務所自然環境整備課		
	担当者名： 岩崎 辰也		
事業・活動名	野焼きの専門家集団の育成		
実施場所	阿蘇郡市内の牧野（下荻の草牧野、坂の上牧野（阿蘇市）及び中郷・竹崎牧野（南阿蘇村））		
実施日・期間	令和 6年 6月 6日～ 令和 7年 3月31日		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保 2 牧野 1 自治体を対象に業務を実施。 ・人材育成研修の実施 講習（1回）：令和7年2月15日（土）中郷・竹崎牧野（南阿蘇村） 火引き実習（2回）①令和7年3月9日（日）下荻の草牧野（阿蘇市） ②令和7年3月21日（金）坂の上牧野（阿蘇市） ・研修参加者への装備（難燃性衣服、ゴーグル、手袋及びヘルメット）を支給。 		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省の事業として実施（受注者：公益財団法人阿蘇グリーンストック） ・阿蘇市、下荻の草牧野、坂の上牧野 ・南阿蘇村、地域おこし協力隊、中郷・竹崎原野組合、長野牧野、瀬田立野牧野 		
実施の様子			
	座学の様子		
実施の様子			
	火引き実習の様子		

活動目標の
達成具合、
その他の成果
や課題

- ・各対象牧野における専門家集団を構成する人材を13名確保。
- ・4つの牧野にて火引き実習を行った。
- ・令和7年2月15日(土)午前の講習では、南阿蘇村旧両併小学校において、研修資料及び資料映像に基づいて進めた。また、午後の火引き実習について、内容と作業手順を説明するとともに、危険箇所や注意点の周知を図った。午後には中郷竹崎牧野に移動して火引き実習を行った。実習に先立ち、本研修の趣旨と目的を改めて研修受講者に周知するとともに、注意事項の伝達を行った。実習は2班(研修受講者は4名ずつ)に分かれ、牧野内の標高が高い箇所から低い箇所に向かい火入れを進めた。
各班には講師が2~3名ずつ付き添い、火引きの際の点火要領、風、スピード等について助言を行った。研修受講者は適宜交代しながら火引きを体験し、実習を通して炎の広がり方や他班との連携を確認した。
実習には火消し役として、阿蘇グリーンストックの野焼き支援ボランティア8名も加わった。南阿蘇村及び阿蘇グリーンストックから動力噴霧機を1台ずつ準備・運用し、事故・延焼等なく終了した。
- ・南阿蘇村については、独自の火引きプロ人材認定制度もあり、本業務と役割を分担して行った。
- ・令和7年3月9日(日)下荻の草牧野の火引き実習として、3名の研修受講者が野焼きに参加し、火引きを行った。受講者は1~2名ずつ2班に分かれ、それぞれの班に講師となる牧野関係者が付き添い、下荻の草牧野における火引きの作業要領・地形・注意点について指導した。実習には火消し役として、阿蘇グリーンストックの野焼き支援ボランティア20名も加わり、事故・延焼等なく終了した。
- ・令和7年3月21日(金)坂の上牧野の火引き実習として、4名の研修受講者が野焼きに参加した。集合場所にて当日の気象条件(強風)を踏まえて協議し、野焼き実施箇所を当初の2箇所から比較的安全な1箇所のみに変更した。受講者は2名ずつ2班に分かれ、片方の班に講師となる牧野関係者が付き添い、もう片方の班には過去に本牧野の野焼き(火引き)経験がある受講者2名を配置して火引きを行い、サポート役として受注者1名が付き添う体制を確認した。火引き開始地点に至ったところで改めて現場の状況を踏まえて作業の進め方や注意点を牧野関係者、受講者、受注者の間で協議したが、風速が常時7.0m/s前後と強めであり、落ち着く見込みがないことから安全のため牧野関係者の判断により火入れを断念した。
- ・各市町村や牧野組合によって、適する形態が様々であり、それぞれのニーズに合った形態を検討していく必要がある。
- ・「牧野組合等への人材派遣型」及び「各牧野のニーズに応じた人材適合型」や「専門家集団による請負型」などの3パターンに分けられる。

<p>実施者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 事務局体制について、主に各自治体が担うことが望ましい。 • 財源確保について検討した結果、国の補助金・交付金等の支援策を軸にし ながら、補填的に市町村の支援メニューを活用する形が有効であると考え られる。 • 特定の人材を集中的に活用することで、弾力的な運営を検討することも財 源確保の面においては有効である。 	
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ 2. 使用なし</p>	<p>(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p>

令和6年度活動結果報告 2-1

提出日	令和7年6月20日	活動区分 ※事務局で記入	(2)、(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 国立阿蘇青少年交流の家		
	担当者名： 後藤 健征		
事業・活動名	阿蘇の草原キッズになろう！（秋編・野焼き編）		
実施場所	国立阿蘇青少年交流の家、高森中央小学校、高森東学園、町古閑牧野		
実施日・期間	令和6年11月7日～ 令和7年2月28日		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋編 <ul style="list-style-type: none"> ・R6.11.7・阿蘇市立一の宮小学校4年生 77名@交流の家 <input type="checkbox"/> 阿蘇の草原とあか牛についての講話 <input type="checkbox"/> 草原の草花観察、自由散策 ○ 野焼き編「火消棒づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ・R7.1.16・高森町立高森中央小学校4年生 31名@高森中央小 ・R7.1.17・高森町立高森東学園4年生 9名@高森東学園 ・R7.1.22・阿蘇市立阿蘇小学校5年生 33名@交流の家 ・R7.1.23・阿蘇市立一の宮小学校4年生 77名@交流の家 <input type="checkbox"/> 火消棒づくり <input type="checkbox"/> 野焼きの事前指導 ○ 野焼き編「野焼き体験」 <ul style="list-style-type: none"> ・R7.2.14・阿蘇小 33名@町古閑牧野 ・R7.2.19・高森合同（中央小、東学園）40名@町古閑牧野 ・R7.2.28・一の宮小@町古閑牧野（※雨天のため中止） <input type="checkbox"/> 安全指導 <input type="checkbox"/> たいまつづくり <input type="checkbox"/> 火入れ（代表者） <input type="checkbox"/> 消火活動 		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋編 <ul style="list-style-type: none"> ・町古閑牧野 市原組合長 ・一の宮小学校引率教員 ・交流の家職員 ○ 野焼き編 <ul style="list-style-type: none"> ・町古閑牧野 市原組合長、釜崎組合員 ・各学校引率教員 ・阿蘇グリーンストック職員、野焼き支援ボランティア ・環境省職員 ・交流の家職員及び演習生・ボランティア ・草原学習小員会構成員（視察） 		

<p>実施の様子</p>	<p>【上段：あか牛講話、草原散策 中段：火消棒づくり 下段：野焼き体験】</p>      
<p>活動目標の達成具合、その他の成果や課題</p>	<p>達成具合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画していた事業について概ね実施することができた。 ・野焼き体験（2/28・一の宮小）を雨天のため中止とした。 <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体と連携することで他では体験できない学習を提供することができた。 ・野焼きの危険度や大変さ、関わる人の思いが児童の印象に強く残り、阿蘇の草原環境に対する興味や関心を高めることにつながった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野焼き体験について、各学校に実施日と予備日を合わせて計3日の日程を確保していただいている。学校行事や担当職員の出張等との兼ね合いから日程調整が難しい状況が続いた。また、気象状況と牧野の状態（霜、露）によっても当日に実施の判断となるため、関係者との情報共有及び実施の在り方について確認する必要がある。
<p>実施者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体の多大な協力によって本事業を継続することができている。しかし、安全管理と実施責任の所在、人員の確保や予算の執行、学校との目的共有や日程調整等について整理と検討が必要だと感じる。

ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)
---------------	----------------------	--------------------------

令和6年度活動結果報告 2-2

提出日	令和 7年 7月 22日	活動区分 ※事務局で記入	(2)、(1)、(3)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 熊本県立阿蘇中央高等学校		
	担当者名： 早瀬 寿樹		
事業・活動名	草原環境学習及び草原維持活動		
実施場所	阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎及び小柏演習林		
実施日・期間	令和 6年 4月 1日～ 令和 7年 3月 31日		
実施内容	①輪地切り、輪地焼きの実施（演習林及び隣接地） ②オブジェづくり ③野焼きの実施（小柏演習林・立山牧野組合） ④再生地植生調査地整備		
実施体制 (連携・協力)	(主体) 阿蘇中央高校グリーン環境科生徒約35名 (連携・協力) 環境省阿蘇自然事務所、阿蘇草原再生募金事務局、竜神牧野、立山牧野、本校農業食品科		
実施の様子	①輪地切り、輪地焼きの実施（小柏演習林、立山牧野） グリーン環境科3年生が授業内で実施した。隣接地もボランティアで防火帯作りを実施した。 ②オブジェづくり 3年生の探究学習のなかで、草原保全活動センターのランドマークとしてあか牛の模型を山都町の八朔祭大造り物の技術を応用し、自然物を使用し制作した。 ③野焼き（小柏演習林、立山牧野） 立山牧野組合と協力して1、2年生が参加して野焼き実習を行った。 ④再生地調査地整備 プロット枠の劣化により、来年度に向けたプロット周辺整備と刈込を行った。		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	今年もグリーン環境科の全生徒が参加し、様々な活動を展開することができた。毎年生徒数は減少しており、生徒一人一人の負担は大きいですが、草原の役割を理解し、地域のためにと頑張ってくれたため毎年継続した活動が可能となっている。高齢で作業できない牧野の防火帯作りなど地域貢献もすることができた。今年度は火消し棒づくりにおいて、グリーンストック阿蘇の方と意見交換を行い、オブジェづくりを行うことができた。今後も地域の生徒達が草原の担い手となるような活動を実施していきたい。		
実施者の感想	草原維持活動を今後も継続して取り組んでいきたい。また、今後も地域の高校として草原再生、環境、農業を守る活動を継続していきたいと考えている。今年度は阿蘇グリーンストックと連携し、小中学生と連携した取り組みを実施していきたい。		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

令和6年度活動結果報告 2-3

提出日	令和6年11月6日	活動区分 ※事務局で記入	(2)、(3)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：公益財団法人 再春館一本の木財団		
	担当者名：田上 裕子		
事業・活動名	親子の自然体験学習会 「とれたての阿蘇の野草を動植物園のゾウに届けよう！」		
実施場所	米塚下園地（阿蘇市）、熊本市動植物園（熊本市）		
実施日・期間	令和6年9月29日		
実施内容	<p>(現地集合・現地解散) 【米塚下園地】 9:45 開会 10:00 野草観察・野草合わせ・発表 11:00 草刈り・草集め</p> <p>【熊本市動植物園】 14:30 ソウのエサやり体験 15:30 閉会</p>		
実施体制 (連携・協力)	<p>共催：熊本市動植物園 後援：熊本県、阿蘇市、阿蘇草原再生協議会 協力：阿蘇くじゅう国立公園阿蘇地区パークボランティアの会 跡ヶ瀬原野管理組合</p>		
実施の様子	※別紙「活動報告書」		
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	熊本市動植物園のゾウが阿蘇の野草を食べているということ、阿蘇に降った水が地下水となって熊本市に湧き出て動植物園の動物たちの命をつないでいるということを実体験として参加者にわかってもらえた。 ゾウ舎に入れる人数に制限があるので、現在の募集人数が適当であるか協議が必要である。		
実施者の感想	<p>野草観察では環境省とパークボランティアの方々から 足元の野草に気づかせてもらったり名前や特徴などを教えていただき、「気づく」ことの大切さを知った。</p> <p>動植物園では自分たちが刈った野草を手渡してゾウに食べさせることができた上に、ゾウに触れる体験もさせてもらって参加者からは「ガチガチでなく柔らかい」と感想があった。</p> <p>距離と時の流れを超えた壮大なつながりを感じる学習会であった。</p> <p>事前の草刈り場の設営や刈った野草の運搬など、環境省と熊本市動植物園の全面協力があってこそこの学習会であると思った。</p>		
ロゴマーク 使用状況	①. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	<p>(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p> <p>「阿蘇くじゅう国立公園90周年」ロゴ 参加者に配布した「野草ハンドブック」の表紙に使用</p>	

【活動報告書】

タイトル	親子の自然体験学習会「とれたての阿蘇の野草を動植物園のゾウに届けよう！」
活動内容	<p>2024年9月29日(日)、秋晴れの阿蘇市・米塚下園地にて、公募で選ばれた親子 29 名の皆さんと「親子の自然体験学習会～とれたての阿蘇の野草を動植物園のゾウに届けよう！」を開催しました。</p> <p>帽子が飛ばされそうなほど強い風が吹く中、環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所の方からは阿蘇の成り立ちや草原の重要性のお話を、</p>  <p>熊本市動植物園の方からはゾウ達が来園した40年前から阿蘇の野草をゾウに食べさせていて草原の維持に貢献していることなどのお話を聞きました。</p>  <p>まず、4つの班に分かれてフィールドワークです。</p> <p>阿蘇パークボランティアや環境省の皆さんの引率で6つのエリアを巡りながら野の花や草、生きものやその形跡などを探しました。</p>  

野草観察の感想を班の代表が発表しました。



つぎに、ススキの海を分け入って…、草刈り場に到着。跡ヶ瀬牧野管理組合の方に数十年前の草刈りのご苦勞を伺い、鎌の使い方を教わりました。



草を刈る人、運ぶ人。順番に交代しながらあっという間にトラックいっぱいになりました。





たくさん草を刈った後の昼食の時間。赤牛 100 パーセントのハンバーグは草原の維持に役立っていることをかみしめながらいただきました

午後は熊本市動植物園での活動です。この日の熊本市内の気温は 31℃。標高と気温の関係から計算すると阿蘇は7度も涼しかったことになります。動植物園南門のすぐそばには地下水が湧き出ています。



20年前に阿蘇に降った雨が今地上に湧き出ている、と動植物園の方からお話を伺いました。熊本地震では園内の水道設備が使えなくなり、日に何度もこの湧水を汲んで動物たちに運んだそうです。動物たちにとって「命の水」です。



いよいよゾウ舎に入ります。

飼育員さんから、ゾウは一日100キロのエサを食べること、そのうち60キロは草だということやゾウの鼻の役割などの話がありました。ピーナツもつまめるそうです。ゾウのフンも持たせてもらいました。



はじめに、リンゴを手のひらにのせて食べてもらいます。その時チャンスがあれば優しくゾウの鼻に触れることができます。



そして、午前中自分たちで刈ってきた野草です。ゾウは、野草の束が大きすぎるときには口に入る量に掴みなおしたり、器用に曲げたりして口に運んでいました。



約40年前にアフリカから熊本にやってきたマリーとエリー。アフリカの草原で野草を食べていたなら熊本の野草もよろこんでくれるのではないか、という当時の飼育員さんのひらめきから始まった「阿蘇とゾウの縁」。遠く離れていても阿蘇と熊本市動植物園のゾウは野草と水でつながっていることを学びました。



令和6年度活動結果報告 2-4

提出日	令和7年7月13日	活動区分 ※事務局で記入	(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：木部直美		
	担当者名：木部直美		
事業・活動名	草原環境学習「オオルリシジミについて学ぼう!」 ★草原キッズプロジェクト		
実施場所	南阿蘇村(白水小学校)、高森町(高森中央小学校・高森東学園義務教育学校)、草原(下磧牧野・前原牧野)		
実施日・期間	令和6年5月1日、5月7日、5月10日		
実施内容	<p>前学習(約1時間・教室内学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> オオルリシジミについての基礎学習を実施する <p>フィールド学習(約1時間半・野外体験学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域の草原に出かけ、オオルリシジミを観察する あか牛の放牧のようす、クラウなどあか牛が食べ残す草などを観察する オオルリシジミの生態をじっくり観察する 放牧地で見られるオオルリシジミ以外の動植物を観察する <p>ふりかえり学習(約1時間・教室内学習) *学校主体で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 学び、気づいたことを共有し、疑問点を専門家等に確認する 		
実施体制 (連携・協力)	<input type="checkbox"/> 実施運営：草原環境学習グループ(大西佳代・花岡利和・花岡玲子・井上真希・木部直美) <input type="checkbox"/> アドバイザー：岡俊樹・岡くに子 <input type="checkbox"/> 南阿蘇村教育委員会 <input type="checkbox"/> 高森町教育委員会 <input type="checkbox"/> 草原環境学習小委員会 <input type="checkbox"/> 下磧牧野組合(南阿蘇村) <input type="checkbox"/> 前原牧野組合(高森町)、鍋平キャンプ場(高森町) <input type="checkbox"/> 参加者：南阿蘇村立白水小学校3年生(26名)、高森町立高森中央小学校4年生(32名)及び高森東学園義務教育学校4年生(9名)		
実施の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">白水小学校の学習のようす(5月10日)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">高森中央小学校・高森東学園義務教育学校の学習のようす(5月7日)</p>		

活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>事前学習と野外での観察を通して、子どもたちは草原にはあか牛だけでなく、様々な動植物がいることに気づき、ふるさとの草原を身近に感じることができた。</p> <p>一方で、前原牧野ではオオルリシジミの観察が難しくなっており、生息状況を注意深く見守っていく必要がある。</p>	
実施者の感想	<p>阿蘇の草原を学習の場として利用する際には、牧野組合の協力と理解が欠かせない。10年以上続いている2つの牧野組合との協力関係を大切にして今後も取り組んでいきたい。</p>	
ロゴマーク使用状況	<p>1. 使用あり ⇒</p> <p>②. 使用なし</p>	<p>(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p>


令和6年度活動結果報告 2-5

提出日	令和7年7月 日	活動区分 ※事務局で記入	(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：大和ハウス工業株式会社		
	担当者名：谷口 聡志		
事業・活動名	ロイヤルシティ阿蘇一の宮リゾート 草原育成プロジェクト		
実施場所	熊本県阿蘇市一の宮町宮地		
実施日・期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 春・夏・秋の住民とのモニタリング調査 (令和6年度より専門家より住民主体に意向) 2. モニタリング調査を反映した草刈りの実施 3. 住民との共創活動としてモニタリング調査およびMAPづくりを実施 		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・実施主体：大和ハウス工業株式会社 ・モニタリング調査、MAP製作：分譲地内住民 ・管理、草刈り：株式会社阿蘇ハウスグリーン 		
実施の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・対象エリア内の野草の成育状況を記録 ・在来種、外来種成育MAPづくり ・活動を通じた住民との交流 ・対象エリアの野草の成育状況についての意見交換 		
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	<ul style="list-style-type: none"> ・住民と年に三回(春・夏・秋)のモニタリング調査を実施 ・カヤネズミの巣など希少生物の存在を確認 ・課題として外来種の抑制が思わしくない箇所があり、草刈り方法と回数の再検討が必要 		
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングを通じて住民の環境リテラシーが向上した ・交流をつうじて、環境に対する取組に興味、関心をもつ住民が増加した 		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

提出日	令和7年6月30日	活動区分 ※事務局で記入	(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：草原環境学習小委員会 担当者名：事務局：環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 藤田幸代		
事業・活動名	阿蘇草原キッズ・プロジェクトⅣ ～草原を通して地域を学ぼう～		
実施場所	阿蘇郡市内の小中学校、地域の牧野など		
実施日・期間	令和6年4月～令和7年3月末（4年間の実施期間の4年目）		
実施内容	<p>①学校における地域学習の拡大と定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 各団体の個別プログラムの開発と実施継続 <p>②地域の学習をサポートする体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育関係者や関係機関、地元牧野組合との連携強化 地域学習に係る役割分担と連携・協働体制の強化 草原学習館の総合窓口機能の強化 <p>③情報発信・普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちによる学習成果の発信としての学習発表会の継続 草原キッズにゅーす発行と、ぬりえコンテストの開催 SNS・HP等での情報発信 		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> 学習小委員会構成員 教育関係機関 地域の牧野組合 学識経験者や関連団体（協議会構成員など） 		
実施の様子	 <p style="text-align: center;"> 水の学習 草原学習 学習館での学習 </p>		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>① 学校における地域学習の拡大と定着 令和6年度実施校 草原環境学習を実施する小学校数：15校/17校中 うち、大地の成り立ち（ジオ）や農畜産業についても学ぶ校数 13校 うち、草原での体験学習を実施する校数：14校</p> <p>② 地域の学習をサポートする体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 火山博物館「Innovate MUSEUM」事業との連携 実務者ワーキンググループ:2回開催 ジュニアジオガイド <p>③情報発信・普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の子ども地域学習発表会は事務局体制不備により実施せず。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発各団体のHPやSNS等での情報発信 ・草原キッズにゅーす第8号を3,500部発行 ・高森高校にイラスト原画募集。30点応募/入賞3点 ・優秀賞のイラストを用いたぬりえコンテストの開催 ぬりえ644点応募/入賞67点（内、高森高校賞4点） 2/21 草原学習館にて表彰式（山川委員長より授与） ・草原キッズにゅーす・ぬりえコンテストについて、阿蘇郡市内の全ての小学校から応募が届くようになり、草原学習館を認知してもらうきっかけづくりとして、役割を果たしてきたと思われる。 <p>新しい普及啓発手段に取り組みたく、今年度で終了としたい。</p>				
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体との連携は、水に関わる学習がわかりやすいと好評いただいた。 ・学習発表会準備期間の10～12月に学習依頼が増えた。マンパワーや学校との連携不足もあり、委員の体制変更などがあり学習発表会ができなかった ・学校に負担をかけない方法で「壁新聞や写真などの成果物」を学習館にて展示するなど、アウトプットの方法を検討したい。 ・令和7年度から「草原キッズ・プロジェクトV」として、引き続き学習に取り組んでいく。 				
ロゴマーク 使用状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">1. 使用あり ⇒</td> <td style="padding: 5px;">（ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">②. 使用なし</td> <td></td> </tr> </table>	1. 使用あり ⇒	（ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）	②. 使用なし	
1. 使用あり ⇒	（ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など）				
②. 使用なし					

令和6年度活動結果報告 2-7

提出日	令和7年7月13日	活動区分 ※事務局で記入	(2)																								
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：公益財団法人阿蘇グリーンストック																										
	担当者名：木部直美(囑託)																										
事業・活動名	令和6年度 草小積み再生プロジェクト																										
実施場所	阿蘇の草原や観光施設の周辺																										
実施日・期間	令和6年8月～令和7年3月																										
実施内容	<p><u>○草小積み製作と展示</u> 昨年度同様に、以下の牧野組合等にご協力いただき、阿蘇郡市内の計20基の草小積みを設置。製作の際は、各地域での技術の継承も進めた。 <製作場所(協力牧野組合等)と設置数></p> <table border="0"> <tr> <td>大観峰付近(小倉・西小倉両区)</td> <td>1基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>城山展望所付近(三閑牧野組合)</td> <td>3基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>箱石峠付近(町古閑牧野組合)</td> <td>3基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>らくだ山麓付近(村山牧野組合)</td> <td>3基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>萌の里(小森原野組合)</td> <td>2基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>265号線沿いの草原(高森と波野の農家)</td> <td>3基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>南阿蘇桜公園(南阿蘇桜公園管理組合)</td> <td>2基</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高森町尾下の草原(高森の農家)</td> <td>3基</td> <td>計20基</td> </tr> </table> <p><u>○普及・啓発活動</u> 地域内外の方に草小積みや阿蘇の草原について知っていただくため、草小積み展示場所への解説板の設置や広報資料の配布、マスコミへのニュース・リリース、農業遺産HPやSNSでの情報発信を行った。その結果、地方紙、行政の広報誌、地域情報発信HPやテレビ局の放送、観光情報拠点施設のインスタグラム等を通して草小積み製作が紹介された。</p>			大観峰付近(小倉・西小倉両区)	1基		城山展望所付近(三閑牧野組合)	3基		箱石峠付近(町古閑牧野組合)	3基		らくだ山麓付近(村山牧野組合)	3基		萌の里(小森原野組合)	2基		265号線沿いの草原(高森と波野の農家)	3基		南阿蘇桜公園(南阿蘇桜公園管理組合)	2基		高森町尾下の草原(高森の農家)	3基	計20基
大観峰付近(小倉・西小倉両区)	1基																										
城山展望所付近(三閑牧野組合)	3基																										
箱石峠付近(町古閑牧野組合)	3基																										
らくだ山麓付近(村山牧野組合)	3基																										
萌の里(小森原野組合)	2基																										
265号線沿いの草原(高森と波野の農家)	3基																										
南阿蘇桜公園(南阿蘇桜公園管理組合)	2基																										
高森町尾下の草原(高森の農家)	3基	計20基																									
実施体制 (連携・協力)	実施主体：阿蘇地域世界農業遺産推進協会 委託先：公益財団法人阿蘇グリーンストック 協力：阿蘇地域の牧野組合や畜産農家、地域内外の協力者 連携：阿蘇草原再生協議会、郡市内の行政や観光協会等(普及・啓発活動への協力)																										
実施の様子																											

	 <p data-bbox="715 454 1098 488">各地の草小積み製作のようす</p>	
<p data-bbox="188 551 363 696">活動目標の達成具合、その他の成果や課題</p>	<p data-bbox="395 533 1406 712">令和6年は10月に雨が多く、11月になっても晴天が続かなかったために草小積み製作の日程変更が続いたことで、「地域を超えた技の継承」に資する研修や体験の「場」設定や映像等での記録ができなかった。反省点として、多くの関係者の日程調整を要する「場」の設定は難しいことから、令和7年は周囲の協力を仰ぎ、映像等での記録を進めたいと考えている。</p>	
<p data-bbox="188 768 363 801">実施者の感想</p>	<p data-bbox="395 730 1401 835">草原を活かす知恵と工夫を後世に伝えていくためには、各地で草小積みを作り風景の中で残すことに加えて、効果的な継承のあり方について多方面からの意見をいただき、更に工夫することが求められていると感じている。</p>	
<p data-bbox="204 887 347 958">ロゴマーク使用状況</p>	<p data-bbox="395 887 576 958">①. 使用あり ⇒ ②. 使用なし</p>	<p data-bbox="655 853 1369 958">(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) 草小積み案内チラシに使用。阿蘇郡市の主要な観光案内施設に配布。</p>


令和6年度活動結果報告 3-1

提出日	令和7年6月13日	活動区分 ※事務局で記入	(3)(1)(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：阿蘇草原再生シール生産者の会 担当者名：渡邊卓実		
事業・活動名	草原植生調査と野草堆肥利用のための採草活動		
実施場所	阿蘇市 町古閑牧野		
実施日・期間	草原環境調査：令和6年8月21日 採草活動：令和6年11月17日、25日		
実施内容	① 草原環境調査 町古閑牧野内の調査区にて採草地の植物調査を行った。 ② 採草活動 草刈り作業を1日、数日後草が乾いた頃に草集め作業を1日かけて行った。		
実施体制 (連携・協力)	●生産者会員2名 その他4名 ●事務局支援 阿蘇くじゅう国立公園管理事務所（連絡調整：情報発信など） ●阿蘇グリーンストック 増井氏、平田氏（調査講師） ●全国草原再生ネットワーク 高橋氏（データ監修）		
実施の様子	   		
成果と課題	成果： ① 採草する草原の植生調査を行い、植生変化データを保管することができた。 ② 大型機械の入れない急傾斜地約2.5haの面積を採草した。 刈り取った野草は会員が野草堆肥として野菜作りに利用するために持ち帰った。 課題： ① 過去13年間のとりまとめに当たって、その取り扱いや調査方法について検討する必要がある。		

	② 高齢化に伴い会員からの参加が減少している。	
実施者の感想	会員の高齢化に伴い、参加者が年々減少している。継続的に実施していくためには、ボランティアなどの協力者を増やしていく必要がある。	
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. <u>使用なし</u>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)

提出日	令和7年7月18日	活動区分 ※事務局で記入	(3)、(1)																																								
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：農事組合法人草原再生オペレーター組合																																										
	担当者名：中坊 真																																										
事業・活動名	未利用草地の採草による草原再生事業																																										
実施場所	阿蘇市内																																										
実施日・期間	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日																																										
実施内容	8～10月に飼料用、11月～3月に堆肥・マルチ用の野草の採草を行い、主に熊本県内の農家に対して販売を行いました。年間の採草日合計は81日で、前年度より13日増加しました。																																										
実施体制 (連携・協力)	草原再生オペレーター組合が主体となり事業を推進し、事業に係る牧野組合との協議や野草販売等については、NPO 法人九州バイオマスフォーラム、阿蘇市、阿蘇地域振興局、阿蘇地域世界農業遺産推進協会等と連携しながら事業を実施しました。																																										
実施の様子	<p>採草面積と新規顧客数の推移を以下のグラフに示します。前年度は悪天候で採草面積が減少しましたが、今年度は比較的天候に恵まれたことと、新たに採草地を増やしたことで採草面積は増加しました。</p> <table border="1"> <caption>採草面積の推移 (ha)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>採草面積 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2006</td><td>58</td></tr> <tr><td>2007</td><td>152</td></tr> <tr><td>2008</td><td>132</td></tr> <tr><td>2009</td><td>122</td></tr> <tr><td>2010</td><td>45</td></tr> <tr><td>2011</td><td>10</td></tr> <tr><td>2012</td><td>18</td></tr> <tr><td>2013</td><td>35</td></tr> <tr><td>2014</td><td>38</td></tr> <tr><td>2015</td><td>95</td></tr> <tr><td>2016</td><td>102</td></tr> <tr><td>2017</td><td>132</td></tr> <tr><td>2018</td><td>152</td></tr> <tr><td>2019</td><td>142</td></tr> <tr><td>2020</td><td>158</td></tr> <tr><td>2021</td><td>152</td></tr> <tr><td>2022</td><td>138</td></tr> <tr><td>2023</td><td>128</td></tr> <tr><td>2024</td><td>173</td></tr> </tbody> </table>			年	採草面積 (ha)	2006	58	2007	152	2008	132	2009	122	2010	45	2011	10	2012	18	2013	35	2014	38	2015	95	2016	102	2017	132	2018	152	2019	142	2020	158	2021	152	2022	138	2023	128	2024	173
年	採草面積 (ha)																																										
2006	58																																										
2007	152																																										
2008	132																																										
2009	122																																										
2010	45																																										
2011	10																																										
2012	18																																										
2013	35																																										
2014	38																																										
2015	95																																										
2016	102																																										
2017	132																																										
2018	152																																										
2019	142																																										
2020	158																																										
2021	152																																										
2022	138																																										
2023	128																																										
2024	173																																										
活動目標の達成具合、 その他の成果 や課題	<p>① 活動目標の達成具合 令和6年度の目標採草面積を152haとしていましたが、実績は173ha(前年比46ha増)となりました。</p> <p>② 成果と課題 採草面積の増加に伴い、生産および運搬に必要な人員の確保が課題となっています。今後は、OP組合員の拡大に向けた積極的な活動が必要です。</p>																																										
実施者の感想	<p>需要の増加に伴って、安定的な在庫の確保が喫緊の課題となっています。今後は、採草地の確保と組合員の拡大を活動の両輪として位置づけ、持続可能な活動を推進するための仕組みづくりを進めてまいります。</p>																																										
ロゴマーク 使用状況	①. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) 名刺に記載																																									

令和6年度活動結果報告 3-3


提出日	令和7年7月 日	活動区分 ※事務局で記入	(3)、(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：熊本県農業研究センター草地畜産研究所 担当者名：庵原 佑介		
事業・活動名	高自給率発酵 TMR を活用した放牧肥育牛飼養管理技術の確立		
実施場所	熊本県農業研究センター草地畜産研究所		
実施日・期間	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		
実施内容	<p>【舎飼い試験】原料に、阿蘇産牧草及び、県産の子実トウモロコシ（試験区①）又はイアコーンサイレージ（ECS）（試験区②）を使用した高自給率発酵 TMR を給与し、発育・肉質への影響を調査した。</p> <p>試験区① ・試験期間：令和5年3月～令和6年6月 ・飼料概要：発酵 TMR（うち、子実トウモロコシ約 30%） 自給率 100% ・肥育成績：月齢 24.1 枝肉重量 433kg 格付 A-2（2頭）、B-2（1頭）</p> <p>試験区② ・試験期間：令和5年4月～令和6年7月 ・飼料概要：発酵 TMR（うち、ECS 約 10～20%） 自給率 83～84% ・肥育成績：月齢 24.2 枝肉重量 460kg 格付 A-3（2頭）、A-2（1頭）</p> <p>【放牧試験】通年で放牧し、子実トウモロコシを使用した発酵 TMR を給与し、発育・肉質への影響を調査した（試験区③）。</p> <p>試験区③ ・試験期間：令和6年2月～令和7年6月 ・飼料概要：発酵 TMR（うち、子実トウモロコシ約 30%） 自給率 100%</p> <p>※それぞれの試験区で、褐毛和種去勢牛 3 頭を供試牛とした。</p>		
実施体制 (連携・協力)	協力機関：熊本県農業研究センター畜産研究所（試験・飼料設計等） 株式会社ネットワーク大津（発酵 TMR 製造） 熊本県酪農業協同組合連合会（トウモロコシ生産）		
実施の様子	 <p>子実 TMR ECS TMR 給与の様子</p>		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<ul style="list-style-type: none"> ・発酵 TMR の自給率は目標の70%以上を達成 ・試験区③…発育状況（令和7年3月時点） 月齢：21.1 体重：652kg ・令和7年度は肉質分析を実施予定、 ・令和7年度以降に各試験区の2反復目を実施予定。 		
実施者の感想	<p>子実トウモロコシ、ECS とともに、嗜好性は良好。</p> <p>子実トウモロコシは汎用コンバインで収穫できる一方、イアコーンは収穫に専用アタッチメントが必要である。</p>		

ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)
---------------	----------------------	--------------------------

令和6年度活動結果報告 3-4

提出日	令和7年7月11日	活動区分 ※事務局で記入	(3)、(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会/中村華子		
	担当者名：中村華子		
事業・活動名	野草種子を緑化事業に活用するための取り組み		
実施場所	荻岳牧野、町古閑牧野、下の道採草組合（などを予定）		
実施日・期間	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化種子の供給を希望する牧野での調達を希望する緑化資材メーカー等に企業に対して、採取方法や採取対象地などを検討する調査～指導を行った。地域共催のシンポジウムやワークショップに関しては諸事情により開催を見合わせた（当方のスタッフ調整の都合による）。 ・活動担当者の所属する大学の大学生等が自主的にボランティアとして現地訪問、可能な範囲で交流をはかった。 		
実施体制 (連携・協力)	日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会阿蘇ワーキングチーム（主体） 牧野での活動は各牧野組合等の協力により実施		
実施の様子			
活動目標の 達成具合、 その他の成果 や課題	<p>今年度、活動の助成金が期限を迎えて活動費がなくなってしまったことに加え、スタッフ調整の事情により夏～秋の活動が難しかったため 次年度に向けて、活動体制の調整を行って再度、牧野への提案～活動を企画する予定です。</p> <p>阿蘇振興局では国立公園内の工事には地域の植物を使用する方向性を打ち出しています。担当者、事業者のみなさんが阿蘇の草原から活用する植物を選び、採取や調達が順調にできるように、普及啓発などを含めた活動を検討していきたいと考えています。</p>		
実施者の感想			
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ○2. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

令和6年度活動結果報告 4-1

提出日	令和7年6月 日	活動区分 ※事務局で記入	(4)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：公益財団法人阿蘇グリーンストック		
	担当者名：平田 靖明		
事業・活動名	阿蘇地域における希少野生動植物の生育生息調査		
実施場所	阿蘇郡市		
実施日・期間	令和6年4月1日～ 令和6年10月9日		
実施内容	<p>植物調査や観察を行っている有志の方々にレッドリスト等記載の植物種についてヒアリングを実施し、その結果を基に実際に現地調査を行い植物の生育状況を確認する。※1</p> <p>現地調査に牧野内の入牧が必要な際は、牧野代表者に連絡を取り、入牧許可を得てから牧野内の調査を実施した。入牧の際には、家畜伝染病予防のため、100倍希釈した消毒液を長靴に散布し入牧した。</p> <p>現地調査では、ヒアリングを基に生育が予想される植物、および生育環境から予想される植物の生息がないか確認を行った。確認した植物については、種名・確認牧野・群落の有無・写真撮影等を記録し、種不明種については細部の写真を撮影し、後日同定を行いレッドリスト等のカテゴリーを評価した。同定のための植物個体の採取については実施していない。</p> <p>※1 キスミシおよびヒロハマヨモギは阿蘇地域の牧野に広く分布するため調査対象からは除外した。</p>		
実施体制 (連携・協力)	<p>ヒアリング協力者 野鳥の会熊本支部 長谷部氏、阿蘇ホテルの会 湯浅氏、阿蘇花野協会 稲益氏</p> <p>現地調査協力者 東京農業大学 鈴木氏、熊本大学薬用植物園 渡邊氏、阿蘇花野協会瀬井純雄氏 熊本県森林インストラクター西一郎氏、阿蘇ホテルの会 湯浅氏</p>		
実施の様子	 <p>産山村の牧野のエヒメアヤメ、牧野内の谷部に点在して生育している。 今後も野焼きが継続されることで生育環境は保たれていくと思われる。</p>		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>阿蘇地域の7市町村でヒアリングおよび現地調査を実施した結果、多くの絶滅危惧種の生育情報または生育を確認することが出来た。絶滅危惧種のカテゴリー別の内訳は環境省(国)レッドリストカテゴリーでは絶滅危惧IB類(EN)9種、絶滅危惧II類(VU)21種、準絶滅危惧種(NT)7種の計37種、熊本県レッドデータブックカテゴリーでは絶滅危惧IA類(CR)12種、絶滅危惧IB類(EN)11種、絶滅危惧II類(VU)10種、準絶滅危惧種(NT)</p>		

	<p>20種の計53種であった。</p> <p>また、確認した絶滅危惧種の中には国内希少野生動植物種が1種、熊本県指定希少野生動植物が11種含まれる。</p> <p>令和7年度についても継続して調査を行い、主に外輪山壁面エリアにて調査をしたいと考えている。</p> <p>調査結果については、今回より東京農業大学の鈴木康平氏に協力いただきデータの整理および取りまとめを行う。</p>			
実施者の感想	<p>外輪山の壁面の草原は風衝環境による影響かもしくは急傾斜により土壌が薄いためか全体的な草丈が低く、とくに背丈の低いネザサ草原は希少植物の生育環境として適しているのではないかとされる。このような急傾斜の草原の保全を継続していくための基礎資料として、急傾斜草原の維持管理作業に係る作業コストの算定などが必要ではないかと考えた。</p>			
ロゴマーク 使用状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">1. 使用あり ⇒</td> <td rowspan="2" style="padding: 5px; vertical-align: middle;">(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">2. 使用なし</td> </tr> </table>	1. 使用あり ⇒	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	2. 使用なし
1. 使用あり ⇒	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)			
2. 使用なし				